

寺社Now

www.jisya-now.com

巻頭インタビュー

全日本仏教青年会理事長

倉島 隆行

寺社の“いま”を伝える情報誌

vol.17

クローズアップ

仏教伝道協会会長

木村 清孝

特集

寺社を未来につなぐ
最先端テクノロジーの活用



マンション



商業施設



賃貸住宅
「シャームゾン」



積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け
住宅



クリニック



土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャームゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



特建くん
©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。



0120-131-470

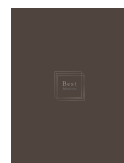
大阪特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅
「シャームゾン」総合カタログ



積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」

02

巻頭インタビュー

救済が求められる今 若い力で時代の要請に応える

全日本仏教青年会理事長

倉島 隆行

06

[特集] 寺社を未来へつなぐ最先端テクノロジーの活用

07 東京藝術大学の「クローン文化財」

12 地域と寺社のプロモーションに役立つ 画期的なWeb地図サービス『Stroly』

14 読経LIVE「キネマ法要」の舞台裏

16

クローズアップ

世界の仏教文化振興に貢献

仏教伝道協会会長

木村 清孝

From the Past to the Future

18 真言宗 南都十輪院
『みんなのお寺 仏教相談センター』

19 株式会社 山本合金製作所
鏡師 山本 晃久

2018年注目ニュース「民泊新法施行」

20 いよいよ6月に施行される「民泊新法」が
寺社の新たな未来を切り開く理由とは？

うちのお宝

22 阿弥陀寺 徳川秀忠の霊廟を移築した本堂

23 関蟬丸神社 石燈籠(時雨燈籠)

野田博明 風まかせ17

24 瀬をはやみ岩にせかるる滝川の
われても末にあはむとぞおもふ

トレンドNow

26 キーワードは“インスタ映え”
フォトジェニックランキングで
寺社が上位に



救済が求められる今 若い力で時代の要請に応える

全日本仏教青年会第21代理事長

倉島隆行

1977（昭和52）年に日本全国の宗派・地域の垣根を越えて活動する、仏教青年の団体として設立された「全日本仏教青年会」。世界仏教徒青年連盟（WFBY）唯一の日本センターでもあり、全世界の仏教徒と交流を深め、仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与することを目指している。2017（平成29）年に新たに理事長の任に就かれた倉島隆行理事長にお話を伺いました。

仏青の21期の理事長に就任されましたが、ご抱負をお聞かせ下さい。

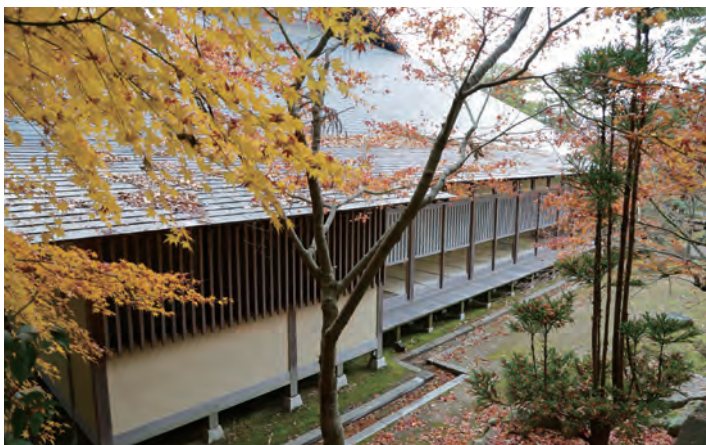
倉島理事長 私は「慈悲の行動」と「日本仏教の今を世界へ」という2つのスローガンの下、これからの2年間を活動していくと考えています。「慈悲の行動」の焦点は弱い立場にいる人々に対する具体的な行動です。全日仏青でも東日本大震災の発生以降、災害支援活動や慰霊法要といったさまざまな超宗派の取り組みが行われ、各青年会同士の絆は深まりました。この連携を活かして貧困などに苦しむ多くの人々に向き合っていくこと、そんな具体的な行動が私たち僧侶に求められていると認識しています。すでに若い仲間たちはさまざまな活動を行い、目線と気持ちをお互いに近づける「弱い立場の人々」に近づける

うとしています。社会もそれを応援してくれる時代になってきました。私は苦しみを抱える人から頼って貰えるような、そういった信頼関係を若い住職たちに取り戻してもらいたいです。全日仏青を挙げて社会との信頼関係を醸成して、「困ったらお寺に行こう」という発信を広く届けるつもりです。

宗派・宗教を超えた交流
和の精神で世界へ発信

二つ目の「日本仏教の今を世界に」については「和をもって貴しとなす」、つまり「和を重んじる」という日本人の精神文化の深い部分を世界へ伝えようということ。私のおります四天王寺は聖徳太子建立と伝わり、太子が説いた和合の心を特に大切に考えています。世界の国々は今、憎しみや反目による緊張感に包まれています。そんな時代に仏教徒の一人として日本にいることを鑑みれば、私達が持つ

身近にいる「弱い立場の人々」に近づける



曹洞宗塔世山四天王寺（三重県・津市）

編集部 全日本仏教青年会（以下、全日

「融合」や「和の精神」を平和への一つの手がかりとして、世界中の人々へと伝えられたいと思うのです。

編集部 これまでの「安寧僧の養成」「諸宗教との対話」は引き継がれるのですか。

倉島理事長 僧侶にとって「終末の現場にどう携わっていくか」は非常に大切なことですから、「安寧僧の養成」には引き続き取り組みます。「諸宗教との対話」については諸宗教対話委員会で、「私達が生活で触れる機会の多い神道と交流すること」「日本の他宗派同士が交流を深める

こと」を目指し、共同研修会や勉強会の開催を要望しました。2007(平成19)年11月18日にダライ・ラマ法王を伊勢神宮にお招きした「伊勢国際宗教フォーラム」において、ダライ・ラマ法王が仰った「調和」「対話」ということを、まず私達が率先して日本の中で取り組み、世界規模の困難に仏教徒として立ち向かっていく。そのためにも仏教と神道はより深く交流しなければなりません。

お寺の存続に必要なことは「時代の要請」への柔軟な対応

編集部 現在お寺が置かれている状況について、どのように捉えられていますか。

倉島理事長 これからのお寺は、地域やさまざまな組織と積極的に共同していかないと、本当に大変なことになります。その為には「お寺をどう持続していくか」というスタンスと、「時代の要請」というキーワードが重要です。お寺は時代に求められ、要望に合わせた存在であるべきで、それによって住職の采配も変化します。時代とともに変わる要望には柔軟に対応していかなければなりません。観光もそういった要望の一つでしょう。

編集部 「観光と信仰とは相容れない」という声もありますが、その辺りはどのようにお考えですか。

倉島理事長 現在のお寺には多くの観光客が来られます。お酒を飲んで「団体ツアー」のような形で来られたら、さすがにお寺と相性は悪いでしょうし、それが続くと「あんな人達に来てほしくない」となります。しかし、ストレス社会の日本ではお寺の果たすべき役割は大きいはずですから、お寺はそれを放置するのではなく、敬意を持って訪れてもらえる工夫をするべきです。旅行会社に観光団体を



プロフィール 倉島 隆行 (くらしまりゅうぎょう)

1977(昭和52)年生まれ。愛知学院大学文学部宗教学科卒。三重県曹洞宗塔世山四天王寺住職。全国曹洞宗青年会会長。全日本仏教青年会理事を経て、同第21代理事長に就任。また、伊勢国際宗教フォーラム世話人としてダライ・ラマ14世をお招きするなど、宗教の垣根を超えて諸宗教対話にも尽力している。



どのように誘導してもらおうかも一策です。そんな工夫の一つとして今期取り組んでいる事業に「巡礼本の発行」があります。全国のお寺でどんな「行」が体験できるのか、それをお坊さんと一緒に体験できるというものをまとめた本を出版し、そこから「観光」に入っていくかと思っています。ただ「行」を特集するだけでは面白くありません。ターゲット層に若い女性も想定しているので、女性に喜んでもらえるものも考えます。こういったことはお坊さんのセンスや思いつきだけでやろうとすると失敗するんですよ。だから、本の発行も切り口もちゃんとプロの手を借りて、そのコンセプトの中で、私たちが「行」と「付加価値」を提供していきます。

観光の二環としての「行」でお寺と参拝客との関係性を深める

編集部 「行」というとどんなものをご提供されるのでしょうか？

倉島理事長 「行」を観光の二環として考えたときは、1時間半から2時間程度で、写経や瞑想、坐禅、お茶などがあり、そこに「お坊さんが一緒にいる」という切り口を加えます。建物を見て、仏像を拝んで、「はいサヨウナラ」ではなくて、住職と話すという関係性にまで持っていけないと「お寺の良さ」はわかってもらえません。「お茶を一緒に飲むだけで急に距離が縮まる」ということがあるでしょう。もちろ

んこれは全てのお寺が主催するのではなく、参拝客が見込めるお寺を選び、周辺のお坊さんたちには「行」の指導、接客や参禅の手伝いをしてもらう。人が集まるようになったら宿坊を設けるなどの事業展開や新しい雇用も考えられます。この形ならば檀家が減っている地域の若いお坊さんにも役割が生まれるでしょう。さらに他団体や他業種との接点も増え、お寺にもちゃんと還元できる「観光の仕組み」が出来ると思います。

編集部 そこまでいくには時間が掛かりそうですね。

倉島理事長 はい。ですから、この計画は段階的に進めます。まず、全日仏青として「巡礼本」を成功させて、お寺に人を集めて「行」を体験してもらおう。更に2020年までに英語版を作り、海外からの観光客対応の経験も積む。今はその流れの中で、「修行ができる」「体験ができる」というステップをつなげていく段階です。その後は、中途半端な状態で超宗派活動にすると散漫になりかねませんから、まず私が所属する曹洞宗で先進的な実験として進めてみたいと思っています。自分が責任を取れる範囲で種を撒いて、有志で力を合わせて成功事例を出す。そこへ向けて取り組んでいきます。

編集部 企画などをプロに任せるとするのは面白いですね。

倉島理事長 お寺の中でも、住職は「行」を通じて地域を救おうとする存在」を目指し、仏教徒としての信仰を以て地域の安寧を図ることに尽力する立場です。ですから、付帯する経営や運営はプロに任せるのもよいと思います。分業することです。檀家などの周囲からの協力やアドバイスで時代に合わせた寺院運営を行いながら、住職はよりシンプルに祈りを深めて、仏教者・宗教者としてのプロになつていくというのが私の理想です。またテクノロジの力を借りるときにも才能を持つ人材やプロがいれば安心です。彼らのアイデアを反映した新しい法要の形を模索したり、ネットでの発信コンテンツの充実も果たせませす。もう一つ、私はアートとお寺は相性がいいと感じています。アートを切り口としたお寺での面白い試み、古いものと新しいものの融合は、日本仏教というものの新たな切り口となるはず

時代がどんどん変わる 若い感性の私達が変わることで 寺の在り方も変わる

編集部 そういったことは「若い感性」が必要ですよ。

倉島理事長 そうです。ですから、「私達が今変えていかないと、変わらないともう駄目だ」と若い僧侶の頑張りに繋がるのです。経済が発展して物質的な満足を求



**今すべきことは情報の発信
「世界仏教徒会議・世界仏教徒
青年会議 日本大会」開催に向けて
支援を広げる**

倉島理事長 もちろん。人間が互いの違いを挙げればキリがないものです。ただ、東日本大震災の後の祈りの場では、その違いなど関係なかったことを思い出してほしいのです。お坊さんにとってその経験は大きなものでした。みんなが本気で力を合わせて「心底から祈る」。そのときの集約したエネルギーは素晴らしいものでした。あの経験は大きな転換点だったかもしれません。だから、明確な中心コンセプトが設定できれば、みんなが同じ方向で頑張れるはずです。みんなが努力するためには、価値判断のベースとなる明確な中心コンセプトが絶対に必要です。

編集部 そのような新しい考え方に對して、皆さんの中で捉え方が随分違うのではないですか？

編集部 そのような新しい考え方に對して、皆さんの中で捉え方が随分違うのではないですか？

編集部 中心コンセプト以外に必要なものは何かありますか？

倉島理事長 最近では昔のような法話を聞いても参加する人は僅かです。お寺から主体的に新しい時代との接点を考えないと何も引つかかつてこない。ですから、周囲の人たちがどういう状況に置かれ、何を求められているかを見抜く目が必要です。実際に坐禅や自己鍛錬を多くの人々が求めています。「元々お寺は地域のものの、地域の財産である」という原点に帰れば、「住職は何を還元できるか」に思い至り、そこから最適なバランスが見えてくるんじゃないかと思います。また大学などの教育機関や一般企業、さまざまに活動している多くの若い人たちなどを、如何にお寺と結びつけるかを考え、普段の交流を増やして仕組みを作り上げることが重要で、それは発信の土台にもなります。この仕組が出来たら、海外から訪れる人々に対する障壁、つまり異文化交流でのマナーや意思疎通の難しさにも対処できます。ガイドさんや人と人の仲介などの地域や周りの協力があれば、外国からの来訪者の受入もうまくできるでしょう。それともう一つ大切な要素があります。どのような組織でも継続のためには、参加者に対する「何らかの還元」が要求されます。さまざまな活動への積極的な参加には、「努力に対する感謝や報酬」という還元を忘れないことが大切です。

編集部 最後に、これからの活動で注力する点などがありましたらお話し下さい。

倉島理事長 これまでよりも多くの活動が住職に求められる時代ですが、中でも情報発信を怠らないことを心がけたいと思います。例えば、毎年春に東大寺で行われる「仏法興隆花まつり千僧法要」は、一般にはその存在があまり知られていません。また、今年の11月5日から9日にかけての5日間に日本で開かれる「世界仏教徒会議・世界仏教徒青年会議 日本大会」もそうです。そこには非常に多くの人々が集まり祈りを捧げますが、「関係者だけしか知らない」のが現状です。「これだけ素晴らしいことをやるんですよ」と一生懸命広報し、多くの人々からの理解と支援をいただけるように頑張つて参ります。



全日本仏教青年会
<http://jyba.ne.jp/>

特集

寺社を未来につなぐ 最先端テクノロジーの 活用

これまで寺社は、建築や美術工芸品などの創造において最先端の技術を導入しながら発展してきた。現代においてもコンピュータテクノロジーを中心とした最先端技術が、寺社の今後の活動に大きな可能性を拓けつつある。本特集では、寺社にとっても注目しておきたい最先端テクノロジーを使った3例をご紹介します。

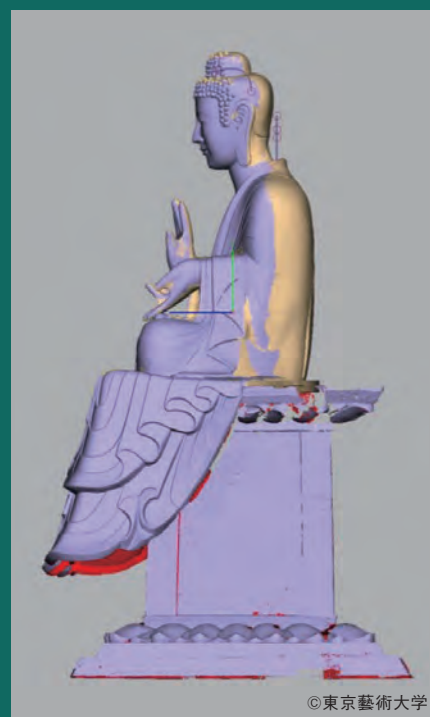
読経LIVE「キネマ法要」の舞台裏



Web地図サービス『Stroly』



東京藝術大学の「クローン文化財」



©東京藝術大学



東京藝術大学のクローン技術で再現された法隆寺釈迦三尊像

文化財の「保存と公開」問題に一石を投じる新技術 破損・消失した文化財がよみがえる

東京藝術大学の「クローン文化財」

自然劣化や災害、破壊などで本来の姿を失った文化財を、クローンとして現代に甦らせる技術を東京藝術大学が開発した。特許も取得したこの技術は、文化財の「保存と公開」の間で揺れるジレンマを解消させる画期的な手段となりそうだ。

東京藝術大学が生み出した
文化財継承のための技術とは

昨秋、上野の森は「特別展運慶」や「怖い絵」展などが開催され、それぞれ入場一時間待ちは当たり前になるほど、美術愛好会で大いににぎわった。その中でも異彩を放ちながらも多くの鑑賞者を集めていたのが、東京藝術大学大学美術館で開催された「シルクロード特別企画展 素心伝心クローン文化財 失われた刻の再生」だ。普通、展示会は「本物」を展示し鑑賞するものだが、この企画展のコンセプトは「クローン（複製）」である。かつて、火災によって古の美しさを失ってしまった「法隆寺金堂壁画」が釈迦三尊像とともに、まるで失われた時間が再生されたごとく、質感はもちろん、年月を重ねてまどわれた古色までも現代に甦らせることに成功した。また、2001（平成23）年に完全に破壊され、今は跡形もない「パーミヤン東大仏天井壁画」さえも、壁画の手触りまで復元されたのである。

これまで文化財における共通の課題として、「保存と公開」の兼ね合いがあげられている。保存を優先するならば非公開として封印してしまう方がよいが、そ



クローン技術で再現された法隆寺金堂壁画

©東京藝術大学

の価値をも封印してしまうことになる。逆に公開を優先するのであれば劣化や損傷のリスクを免れない。観光客が飛躍的に増大している現代ではなおさらだ。「シルクロード特別企画展 素心伝心クローン文化財 失われた刻の再生」では、この文化財の「保存と公開」の問題に対して新たな答えを投げかけている。

こうした文化財の本来の姿を現代に甦らせる試みが各方面で行われているが、東京藝術大学 COI 拠点(以下東京藝大)は、文化財をクローンとして複製する特許技術を開発した。この東京藝大が産学連携で研究を進める、高精度な文化財の複製は「クローン文化財」と呼ばれる。

これまでの複製と大きく異なる点は、最先端のデジタル技術を使って精度の高いプリカを作成し、さらに彫刻、絵画、工芸などの美術家による人の手技や感性を取り入れて仕上げることで、単なる複製ではなく新たな芸術を生み出すことにある。

このクローン技術を使って初めて再現されたのが、法隆寺金堂壁画12面である。四方四仏と八大菩薩が描かれ独創的な優美さをたたえ、インドのアジャンター石窟群や敦煌莫高窟の壁画とともに古代仏教絵画の傑作

と知られるこの壁画が、クローン文化財として1949(昭和24)年に焼損する以前の状態で再現された。さらに、日本仏教彫刻史における最高傑作とされる釈迦三尊像や重要文化財の天盖も再現され、まさに仏教美術の極地とも言える空間の再現がなされた。

シルクロードの結晶 法隆寺釈迦三尊像と 金堂壁画の再現方法

では、門外不出となっていた国宝・釈迦三尊像はどのようにしてクローン文化財として再現されたのか。こちらの再現には3Dスキャナでオリジナルの御像を計測し、デジタルモデリングシステムを使用して、3Dデジタル上で造形。さらに3Dプリンタで鋳造原型を造形する方法が使われた。法隆寺金堂壁画12面の再現は、1949(昭和24)年の焼損前に撮影されたガラス乾板やコロタイプ印刷、明治時代の模写が集められ、これらの資料をもとにすべての壁画資料をデジタル化して画像を統合。画像の編集と印刷のみをデジタル技術に頼りつつ、模写技術の継承という意味も込めて、質感

再現や彩色仕上げは伝統的な手作業による方法が用いられた。

世界が落胆した破壊事件 あの壁画が再び目の前に

2001(平成13)年に破壊されたアフガニスタン・バミヤン東大仏の仏龕天井壁画。実はこのバミヤンの壁画に関して最も重要な資料を有しているのは日本だ。この壁画は約8メートル四方と巨大。1970年代に撮影された15000枚におよぶブローニー版の写真が京都大学人文科学研究所に残っていることを確認し、こうした貴重な画像の中から選んだ約150枚を、高精細デジタル化して壁画の細かい部分まで完全に復元。岩などに描かれた壁画も、壁の質感や顔料の盛り上がりまで忠実に復元した。また高原のさわやかな風が吹き渡る標高2500メートルのバミヤンの渓谷も、最新のCG技術や4K映像で再現されており、あたかも時空を超えてバミヤン大仏の頭上に立っているような感覚を実感させてくれる。

法隆寺釈迦三尊像の再現工程



11 4つの湯口より注湯。注湯のタイミングは熟練した職人の勘所による



12 鑄型を金楯で割りながら鑄物を取り出す



13 大光背の鑄型を吊り上げ、表面に残る鑄物砂を取り除く。釈迦三尊像光背銘をスクリーン印刷で転写し、筆勢や勢いを再現するため彫金の技術で一文字ずつ彫る

⑭3Dプリンタによって出てくる積層痕を特注のこてヤスリなどで除去し、造形が完成した像に鍍金を施し、硫化着色、緑青着色を用いて古色を再現し仕上げる



15 欠落したり位置がずれた螺髪も3Dデータ上で合成し、造像当初の状態再現している



5 3Dの樹脂型から中尊のロウ型を製作



6 ロウ型を砂でかたどり



7 複雑な造形箇所は大小の型に分割し、組み立てて鑄型にする



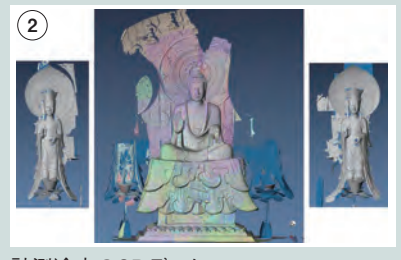
8 大光背の裏側の鑄型を表側と合わせる

⑨銅合金(ブロンズ)を溶かす

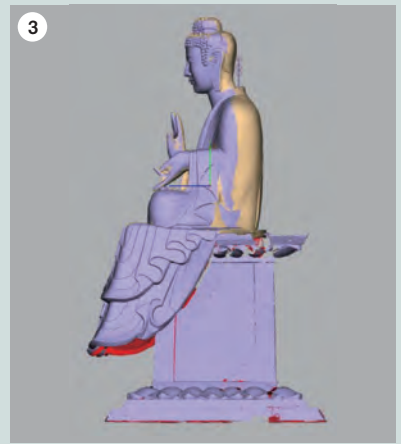
⑩鑄型を焼いて加熱



1 釈迦三尊像の三次元計測(三次元計測枚数239枚)



2 計測途中の3Dデータ



3 3Dデータによる造形(青色が計測した部分、黄色が3Dデジタル上で造形した部分)



4 3Dデータをもとに中尊の樹脂製原型を制作



往時がしのばれる、再現された法隆寺金堂壁画と釈迦三尊像やその台座、天蓋

排他的な時代だからこそ 文化財で知る多文化世界

このクローン文化財の意義について、プロジェクトを率いる東京藝術大学大学院の宮廻正明教授はこう語る。「世界中の名品に接することが可能になるのがクローン文化財です。また破損や消失などによって失われてしまった美術品も復元ができません。しかも制作当時の状態まで遡って復元することもできません。従来レプリカとは異なった付加価値を生み出せます。世界に点在する画家の作品を全てクローン文化財で再現して「同」に展示することもできるので、これまでの美術館、博物館の展示にも大きな影響を与える可能性があります」

このように、文化財を「モノ」として再生するだけでなく、臨場感まで再現してその精神性や意図までもイメージさせることは、「モノ」が壊れても「コピロ」は残り続けることも示唆しており、紛争やテロによる文化財の破壊行為に対するカウンターメッセージでもあることは間違いない。

法隆寺の金堂壁画とバーミヤンの壁画は、シルクロードでつながる東西文化の多様性の結晶と



現状の模刻ではなく制作当初の形状を考慮して復元された、敦煌莫高窟第57窟の仏塑像



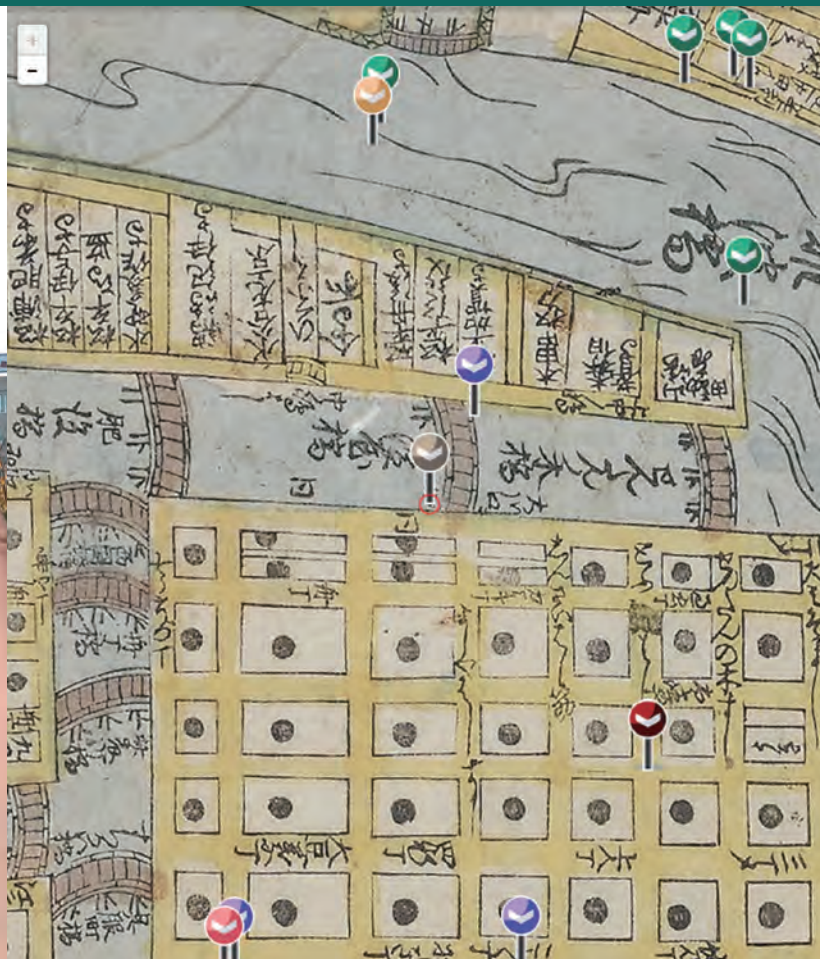
復元されたパーミヤン東大仏の天井壁画

いえる。このクローン技術による再現や復元を通して、あらためてその価値の高さを社会全体で考えるきっかけを与えるに違いない。それは、文化財を広く社会に知ってもらう場合に常に投げかけらる「保存と公開」という問題へ一石を投じる新しい技術と言えよう。

<取材協力>
東京藝術大学 COI (センター・オブ・イノベーション) 拠点
<http://Innovation.geidai.ac.jp/>



クローン文化財であれば、展示物に実際に触れることも可能となる



寺社に残る古地図や絵地図を手軽な作業で実用的な地図に! 地域と寺社のプロモーションに役立つ 画期的なWeb地図サービス『Stroly』

「Stroll=散歩する」と「Story=物語」を掛け合わせた造語が名前の由来の『Stroly』。
手描きの地図でも、オリジナルのイラストマップでも、手軽にGPSと連動させてWebで公開し、
地域のコンテンツも登録できる。町おこしイベントの新たなツールとして利用が可能だ。

手描きの自作地図が
Web上で実用的に

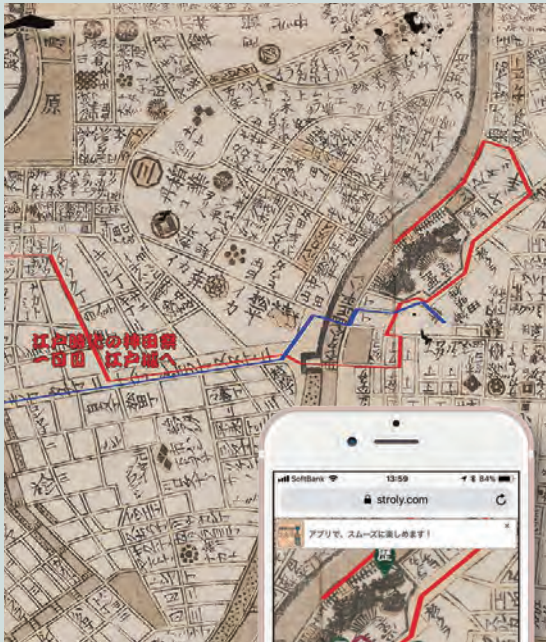
サービスの大きな特徴は、縮尺や距離のあいまいなイラストマップや古地図、鳥瞰図でもStrolyのWebサイトにアップロードすれば、GPSと連動する。実用的な地図に置き換わるという点だ。スマートフォンブラウザから当該地図ページへアクセスすれば、たちまちあなたの現在地も表示される。それにしても、縮尺も適当な手描きの地図上に現在地を本当に表示することができるのだろうか。寺社での活用イメージと合わせて、共同CEO・代表取締役である高橋真知さんにお聞きした。

「さまざまなデザイナーの地図、例えば寺社ならパンフレットや看板に使っている境内図を、手軽な作業で現在地が示せる実用的な地図にすることができることが、私どもの技術的なコアとなります。弊社が特許を取得した、不正確な地図上に現在地や任意の指定した場所を表示する、サーバーシステムと演算処理により、どんな縮尺の地図でも大丈夫です」と高橋さん。つまり、「地域の魅力がよくわかる手描きの観光地図

Strolyの活用例

<事例:神田祭>

神田祭の巡行路ガイド地図や、神田周辺の古地図をStrolyによりオンライン化。地図上には歴史や食に関するスポットが表示されている。



利用者はポイントをタップすると詳細情報を閲覧することができる

「地図からぶらり」「歴史からぶらり」「食からぶらり」というコンテンツに分かれており、歴史散策、グルメ散策など目的別に利用することができる。現在はスマートフォンアプリとしても公開されている。



株式会社Strolyの共同CEO/代表取締役社長 高橋真知さん

や、歴史が伝わる古地図を使ってGoogleマップのようにGPS付きで持ち歩けるようになる。

地域の「寺社めぐりツール」として活用が可能

寺社とその周辺施設が記載された地図、もしくは寺社が保有する古地図をStrolyのWebサイトにアップロード。情報ピンが設定できるので、紹介したい施設とその詳細情報を入力すると地図がWeb上に公開できる。古地図をベースとしたオリジナル地図であれば、かつてこの場所は川だったんだ。〇〇藩の屋敷があったんだなど、今いるところにその昔は何が存在していたのかもわかる。さらに寺社が地域のなかでどのような歴史

コンセプトは みんなが見えている世界を共有しよう

「地域にある文化や生活に注目して、それぞれの視点で楽し

をたどってきたのか、地域との関わりにおいてどのような役割を担ってきたのかも詳細情報に記録されていると、ちょっとした街歩きもグッと魅力的なものになるのではないだろうか。また、宿坊をされているのなら、周辺の観光スポットや食事スポットを盛り込んだ地図も便利だろう。

い手描き地図を作り、Web上で共有し、面白いものを発掘していこう、ということ。Googleマップのような地図は日常的に利用するには便利ですが、Strolyは地域の魅力を見つけ出すきっかけになると思います」と高橋さんは語る。

誰でも自由に、費用をかけずにオリジナル地図をWeb上に公開することができるStroly。地域の魅力を伝える新たなツールとして活用できそうだ。

<取材協力>

株式会社Stroly

〒600-8258 京都市下京区金換町109-1

コーポレートサイト <http://stroly.jp>

Web地図サービスStroly <https://stroly.com>



本堂の両脇に大型スクリーンを設置し経文「日没無常偈」の内容を表現したオリジナル映像を上映

読経にあわせたオリジナルの音楽と、 お経の内容を解釈したオリジナルの映像で法要を演出 読経LIVE「キネマ法要」の舞台裏

江戸時代からの古い家並みが数多く残る大阪府八尾市久宝寺寺内町。ここで昨年9月に開催された「燈路まつり」は、地域住民を中心に7000人近くの人々が訪れ、主要な生活道路に並ぶたくさんのお寺の燈籠と、そのやさしい灯りが醸し出す幽玄な雰囲気にも多くの人が酔いしれた。

同まつりの一環として浄土真宗本願寺派久宝寺御坊顕証寺では毎年読経が行われる。今回は浄土真宗本願寺の声明の講師を務めるいわば読経の達人、顕証寺近松照俊前住職の生の読経に合わせ、オリジナルの楽曲をBGMで流し、さらにお経の内容を解釈し表現した映像も同時に上映するという、画期的な催しが行われた。

生の読経のテンポと音階に 音楽と映像を調整し 合わせる

「キネマ法要」と題されたこの催しを企画・実施したのは、さまざまな映像作品を手掛ける株式会社レイ・クリエイション。当日は、本堂の両脇に大型のスクリーンを設置し、「キネマ法要」をはじめ、外壁の白壁にも映像を投影するなど、多彩な映像コンテンツで訪れた人々を

楽しませた。

「キネマ法要」の最大の特徴は、経文「日没無常偈」の内容を表現したオリジナル映像と、読経にあわせたオリジナルBGMを組み合わせたことにある。今回実施するにあたっての工夫などを、ディレクターを務めた同社の松井麻里さんにお話を伺った。

「今回『キネマ法要』を実施するにあたってBGMの制作に最も気を使いましたね。音階がずれると違和感を与えるので和音階のお経に対し、あえて洋音階の曲を作曲家に依頼しました。これは御前（前住職の近松照俊さん）からのご要望です。当日は音響スタッフを入れ、決してお二人の読経の邪魔にならないよう、キーも調整することで抑揚をうまく表現できたと思います」と松井さん。

当日の読経は前住職の近松照俊さんと、現住職の近松真定さんによる掛け合いで行われたが、ライブなので微妙にテンポが変わる実際の読経に、前もって制作されメディアに記録された音と映像を現場であわせるのは、かなりの技術が必要となる。しかも、前住職の近松照俊さんは、浄土真宗本願寺のお導師（声の指導者）を長年務めたばかり、読経に対するこだわりもか



阿弥陀如来やハスの花、花びらなどのイラストはイラストレーターが描いたオリジナル

なりのもので、BGMには読経の音階に対する細かな配慮が求められたそうだ。

経文を現代的に解釈し オリジナル映像を作成

経文を丁寧に読み解き、内容に沿ったイラストとグラフィックもオリジナルで作成された映像は、多くの人々を魅了した。「この経文はこういう解釈だから、こういう風に変えてほしいというご意見を頂きながら、作成しました。近年の戦争の映像を入れるなど、私たちなりの現代的な解釈も入れ込みましたが、御前からお褒めの言葉を頂き大変恐縮しました。映像は経文の内容によって切り分けて作成することで、現場で微妙にテンポが変化する読経にあわせるように工夫をしました」

前任職の近松照俊さんは「キネマ法要」を実施してみた感想をこう語る。「今回の試みはとても楽しかったですね。嬉しい、楽しい、ありがたい」というのが私のお経に対するモットーですが、それを映像の力で具現化できたと思います。今後は、より映像の力と声明の力が見える形でグレードアップできればいいですね」

お寺本来の魅力を伝える 映像企画が注目される

そもそもこうした映像を制作するきっかけを尋ねると「最初のきっかけは棺のデザインです。そこから葬儀の演出を考えるようになり、祭壇の代わりにスクリーンを設置し、棺とスクリーンに映し出される映像コンテンツだけでコンパクトにご葬儀を演出する『キネマ葬』というプロジェクトを考案しました」と松井さん。これらを展示会などで紹介していたなかで、お寺でのイベントに既存のやり方に加え新しい企画を模索していた顕証寺の希望とも合致し、今回の「キネマ法要」が実現したという。

録音した読経の音声を何度も何度も繰り返し聴きつつ、内容を自分なりに解釈して映像のシナリオを作成していくなかで「この素晴らしいお経の内容をきちんと伝えればもっとお寺に関心を持ってもらえるのでは？」と感じた松井さん。展示会などで「何か人を集めることや、新しいことをしたいが、なかなかできていない」と声を掛けられることも少なくないという。「特に若い世代の僧侶の方が多いですね。私たちはコンサートや落語会などで、一時的に人が集まる場所を提供

するだけではなく、お経や建物、歴史などお寺が本来持っている魅力を丁寧に伝え、知ってもらうことが、大切なことだと感じました。映像がそのきっかけのひとつとなるよう、微力ながらお手伝いできればと思っています」。キネマ法要の様子は、レイクリエーションのホームページで見ることができます。

<取材協力>
株式会社レイ・クリエーション
〒541-0043
大阪市中央区高麗橋3-1-8
カルボ高麗橋ビル(1・2F)
TEL: 06-6228-1010
<http://www.raycreation.co.jp/>

「[特集]寺社を未来へつなぐ最先端テクノロジーの活用」を通じて、寺社が本来的に有する魅力をより今の時代に合わせて伝える手段として、デジタルテクノロジーを中心とした最先端技術の導入が有効であることが見えてきたのではないだろうか。本誌では、今後も最先端技術に注目し寺社への有効な活用方法を探っていきたい。

世界の仏教文化振興に貢献する 仏教伝道協会



人間の完成を目指し世界中の人々に仏教の心を伝える

1965（昭和40）年に沼田恵範さんの発願により設立された公益財団法人仏教伝道協会。5千余巻にもおよぶ経典をまとめあげた『仏教聖典』は、46言語に翻訳され、現在、世界62カ国の主要ホテルや寺院・病院などに約920万冊頒布されている。

偉業ともいえる事業を成し遂げた仏教伝道協会の歩みについて、曹洞宗龍宝寺のご住職であり、華厳思想・東アジア仏教を

専門に東大名誉教授も務める木村清孝会長にお話を伺った。

「発願者である沼田恵範師は、東広島市の浄土真宗本願寺派浄蓮寺の第16世沼田恵生師の三男として生まれました。19歳のときに浄土真宗本願寺派よりアメリカ開教使補に推され渡米すると、カリフォルニア大学バークレー校在学中に『ザ・パシフィック・ワールド』という東洋文化を紹介する雑誌を創刊します。当時の米国はまだ排日感情が色濃く、お茶や華道、剣道など東洋文化を通して、間接的に仏教精神の素晴らしさを伝えようと

しました」

『ザ・パシフィック・ワールド』は、米国の各大学や図書館などに寄贈され、多くの識者に好評だったという。しかし、4年後、経済的に行き詰まり廃刊。沼田恵範さんは、その教訓を胸に、帰国後、三豊製作所を創業、マイクロメータの分野では国内90%以上のシェアを誇る株式会社ミットヨへと育て上げる。事業の発展により、かねてより「世界の平和は人間の完成によってのみ得られ、人間の完成を目指す宗教に仏教がある」と考えていた沼田恵範さんは、仏教伝道

プロフィール 木村 清孝（きむら きよたか）

1940（昭和15）年熊本県生まれ。公益財団法人仏教伝道協会会長。曹洞宗龍宝寺住職。東京大学名誉教授。1963（昭和38）年東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程の修士課程へ入学以来、一貫して華厳思想を中心とする東アジア仏教思想の研究に従事。2017（平成29）年より現職兼務。

への安定的基盤を得て、私財を投じ、新たに仏教伝道協会を設立。仏の教えを広く世界に伝えるため『仏教聖典』の現代語訳に着手するが、数多くの宗派が存在する日本でその作業には多くの困難が伴ったという。

「宗派が細かく分かれているのは日本の特徴。それだけに『仏教聖典』の編纂には苦労が多かったと思います。ともあれこの聖典は大乗仏教と上座部仏教を通じて基本的かつ重要な仏の教えを網羅し、しかも誰もがそれを理解できるように工夫されています」



『仏教聖典』

現代語訳『仏教聖典』の 多言語翻訳とその無償頒布

『仏教聖典』の現代語訳は多くの賛同者を得ることになる。そして、外国語訳による編集、刊行とその普及が仏教伝道協会の事業の柱となり、1966（昭和41）年には『日英対訳仏教聖典』が刊行される。今も全世界のホテルに約7万冊が無償で頒布されている。東日本大震災の被災者から「ホテルで見た『仏教聖典』の二言に救われた」という声も届いたという。木村会長は「仏教の教えが、個人の悩みに寄り添い安心できる場所をつくるのができたなら、私たちのひとつの目標は達成されたといえる」と語る。

超宗派の団体として 宗派間の交流を促進

現在、仏教伝道協会では『仏教聖典』を従来の型にとらわれず、現代人が親しみやすい副読本やマンガなどのかたちに編集しなおして発行もしている。また、仏教精神を体験できる坐禅会やヨガ教室、英語講座のほか、絵本コンテストの創設など、ユニークな活動も行う。さらに、超宗派の仏教団体として、宗派間の交流を進める活動にも積極的だ。

「実践布教研究会は、1970（昭和45）年の創設から毎年開かれている超宗派の活動です。この研究会は、日本仏教各宗派を代表する大本山で行われ、これまでも比叡山延暦寺、身延山久遠寺、正法山妙心寺、吉祥山永平寺などが会場になりました。研修中は、会場となった宗派のお勤めの仕方、講話、食事作法などを学び、聞・思・修三慧体となった仏道を修めめす。普段、なかなか知ることができない他宗派の仏道を体験することで、自らの宗派を新たな視点から見つめ直すことができます」

世界でますます存在感を 強める制度や取組み

さまざまなアプローチで仏教精神の醸成・流布を図る仏教伝道協会。世界に目を向けると、その存在感はより大きくなる。代表的な事業が、30年以上前から寄付講座として開かれていた「沼田仏教講座」だ。今やオックスフォードやハーバードなど世界有数の名門大学をはじめとする15の主要大学で開講されている。

また、近年、欧米では日本仏教の研究者が増え、多くの成果をあげているという。その陰には、二代会長の沼田智秀さんから始まった外国人留学生奨学金制度などの、仏教伝道協会の継続的な支援と、学術振興への貢献がある。

1982（昭和57）年から着手された『英訳大蔵経』の刊行事業も、その代表的事例だ。「大蔵経のもとになる『大正新脩大蔵経』は、もともと漢文で書かれたものです。これを世界各国の仏教学者の協力のもと、最新の研究結果で読み解いて翻訳。1993（平成5）年には初巻『撰大乘論』を発売、現



仏教研究の宝庫『大正新脩大蔵経』



宗派を超えた 仏教入門書を 無償提供

仏教伝道協会では、寺院をはじめとする法人に向けて、書籍『とってもしやすい はじめての仏教』（日本語版・英語版）、『ブッダのおしえ』（日本語版・英語版）を、同協会のホームページを通じて無償で提供している。また同書はホームページで電子版の閲覧も可能。そのほか同協会ではホームページで、『仏教聖典』などの各種出版物の頒布も行っている。

公益財団法人 仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
TEL:03-3455-5851 <http://www.bdk.or.jp/>

在85典籍が53巻にまとめられた。全仏典の翻訳完了にはまだまだ時間を要しますが、世界中のより多くの方々に仏教を広めるために、今もなおその刊行が続けられています」

長年、各国語に翻訳した『仏教聖典』を寄贈してきた仏教伝道協会の活動は海外からも高く評価され、これまで世界各地で贈呈式が開催された。合わせて寄贈先国の協力も得てその式典へ参加できる日本からのツアーも組まれてきた。昨年には、今世界から新しいマーケットとしても注目を集めるミャンマーに、『仏教聖典』ミャンマー語版と英語

版が、同国のホテル1054軒、約4万室に常備されるよう10万冊寄贈された。それとともに、ミャンマーでの『仏教聖典』贈呈式の開催と、この式典参加を含めたミャンマーへの仏教伝道協会オリジナルツアーが企画されている。

発願者の沼田恵範さんの、世界の人々に仏教精神を広めるという志を受け継ぎ、国内外の仏教伝道活動と、仏教文化・学術振興に寄与する仏教伝道協会。超宗派の団体だからこそ可能な幅広い活動が今後注目される。

From the Past to the Future
寺社の新たな取り組み

真言宗 南都十輪院『みんなのお寺 仏教相談センター』

商店街にある『出張寺院』が寺本来の在り方を問う



(右)南都十輪院住職橋本純信さん
(左上)「みんなのお寺」奈良の中。ご本尊の阿弥陀如来と瞑想室や写経室などがある(左下)東向商店街にある「みんなのお寺」奈良



奈良と東京それぞれ
月100人が訪れる出張寺院

奈良市十輪院町にある真言宗 南都十輪院。奈良時代の元正天皇の発願による創建、右大臣・吉備真備の長男である浅野宿禰魚養の開基ともいわれる由緒ある寺だ。

この寺の橋本純信住職が、2006(平成18)年4月に、地元の商店街の一室を借りて「みんなのお寺 仏教相談センター」を開設した。地元民や観光客でにぎわう、およそ寺院がありそうにない場所にある「出張寺院」だ。住職と僧侶6人、職員3人が交代で詰めている。橋本住職は「もつと気軽に、檀家さんだけでなく一般の方と接点を持つ方法はないか、という思い。そして、何が幸せか掴みにくい現代社会において、ここの休息所としての役割を果たしたい、という思い。これらのことから商店街に「出張寺院」を作ったのです」と語る。

2014(平成26)年には東京にも開設。訪れる人は、奈良と東京でそれぞれ月約100人。老若男女、さまざまの人が訪れている。僧侶と話ができるというだけでなく、朝と夕方の勤行、写経、写仏、瞑想をする人もいる。まさに本来のお寺の在り方を体現している施設といえよう。

出張寺院を拠点として
拡がる人と人の絆

「みんなのお寺」で一番多い相談は個

人的な悩み事だそう。橋本住職いわく「やや男性が多いです。男の人はストレス発散がヘタですからね(笑)。そういう相談を聞くことは僕らにとっても修行になります。こういう対応をすべきだったんじゃないか、こういうことを勉強しておかないとだめだね」と毎回反省しています。僕以外の僧侶はほとんどが30歳代ですから、なおさらですね。法事や墓、永代供養の話も、今ではひっきりなしに問い合わせがあり、結果として寺院の運営にも寄与しているようだ。興味深いのは、訪れる人同士で会話や繋がりが生まれ、それが来訪者にとって大切なものになっていること。まさに『みんなのお寺』だ。古くから地域の人々の交流場所でもあった寺院の役割が、ここに顕現している。「時にはもう僕はいなくてもいいんじゃないか、と思うこともありますよ」と橋本住職は笑う。まさにこの施設は、地域に密着した現代の寺の在り方の可能性を秘めているといえよう。

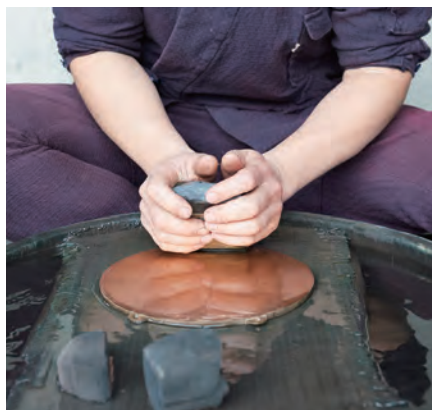
- <奈良>
- 〒630-8216
- 奈良市東向南町1 ami21ビル2階
- TEL: 0742-25-5588
- ○開館時間: 10時~19時
- ○朝のお勤め: 10時~10時30分
- ○夕のお勤め: 17時~17時30分
- <東京>
- 〒101-0051
- 東京都千代田区神田神保町2-24
- 木下ビル2階
- TEL: 03-6261-3356
- ○開館時間: 8時~18時30分
- ○朝のお勤め: 8時~9時
- ○夕のお勤め: 17時30分~18時30分
- 定休日(奈良・東京): 木曜日
- <http://www.jurin-in.com/minna.html>

From the Past to the Future

伝統と文化を継承する職人名鑑

株式会社 山本合金製作所 鏡師 山本 晃久

30年で一人前！ 自分自身をも磨き続ける5代目鏡師の挑戦



(右) 学生時代に実家でアルバイトしたことが家業を継ぐきっかけだったと語る山本さん
(左上) 青銅鏡作りの技法は古来より受け継がれてきた伝統的な手法をそのまま引き継ぐ。自らが納めたものに対して長く関われるよう、ご神鏡の修復や年に1回が理想とされるメンテナンスとしての磨きも請負う(左下) 光の当たり具合で図案が浮かび上がる魔鏡は、ギリギリまで薄く研ぐ高度な技術が必要

- <株式会社 山本合金製作所>
- 〒600-8837
- 京都市下京区夷馬場町6-6
- TEL : 075-351-2338
- <https://www.facebook.com/yamamotogoukin/>



多くの神社の拝殿に据えられているご神鏡と呼ばれる青銅鏡を創業時の江戸末期から作り続けている山本合金製作所。ここで現在中心となって鏡作りに励むのが5代目、山本晃久さん。その肩書きは「鏡師」。年に1度行うのが理想とされるメンテナンスも含め、青銅鏡作りに携わる鏡師職人は全国的にも数少ない。

鏡師の仕事はまず鑄型作りに始まり、その後鑄造された金属を研いで仕上げるが、鑄型・鑄造・研ぎの3工程それぞれを一人前に行うには各10年、計30年の経験が必要と言われる。

「私は鏡師になって20年弱。一人前の職人なら1枚を納めるのに作る鏡は2枚ですが、私の場合はまだ5〜6枚作ります。直径20センチメートルの鏡で2ヶ月は製作に要するので枚数を作るのは大変ですが、一人前になるには経験を積むしかない」と語るよう真摯に変わらぬ伝統工法で青銅鏡を作る一方で、アート界からの評価も高く、アーティストとのコラボレーションも多い。

「展示会への参加をはじめ不定期で鏡作りのワークショップも開催していますが、これらは全て、鏡師」という職業を知ってもらうため。鏡師という仕事を知り関心を持ってもらうことで、この仕事や技法を次世代に伝えていきたいです」

いよいよ6月に施行される「民泊新法」が 寺社の新たな未来を切り開く理由とは？

昨年公布され注目を集めた「住宅宿泊事業法」が、今年の6月からいよいよ施行される。「民泊新法」と呼ばれるこの法律が、寺社にとって新たな未来を切り開くことになるかもしれない。

民泊とは一般的に「個人宅の一部や空き別荘、マンションの空室などを観光客に有料で提供すること」と定義されている。近年、東京、京都、大阪ではホテル需要が爆発的に高まり、特に京都ではホテルの平均稼働率が90%を超える異常事態となっている。

この需要激増に対応すべく、個人宅やマンションを貸し出す新しいビジネスモデルが出現したが、それに対する法整備がまったくなされておらず、違法な状態の民泊が増えることとなった。結果として、宿泊客が夜中まで騒いだりゴミを散らかしたりと、管理不足ゆえのトラブルも多

発していた。この状態をしっかりと管理するため、そして激増する宿泊需要に応えるためにこの新法が生まれた。

新たな規制は寺社にとって好都合

本来、旅館業の許可を得ずに反復継続的に有料で客を宿泊させる民泊は違反行為だった。しかしこの新法に則って届出をすれば、旅館の許可を得なくても年間180日まで宿泊を受け入れることができるようになる。

消防用設備等の設置も、民泊として使用する部分が建物全体の半分以下で、かつ50㎡以下であれば不要だ。

1人あたり3.3㎡以上の床面積が確保されるなら宿泊者数の制限もない。施設内にひとつでも空いた部屋があれば宿泊場所として活用で

条件	旅館業法 (簡易宿所)	民泊新法 (住宅宿泊法)
申告形態	都道府県 (保険所設置市区は市区長) に対する許可申請	都道府県 (保険所設置市区は市区長) に対する届出
営業上限 日数	なし	180日*
最低宿泊 日数	なし	なし
フロント 設置	原則なし	なし
宿泊者数	制限なし (ただし定員が多く なれば必要トイレ数が増え、最低床面積 [人数×3.3平方メートル] が必要)	制限なし (最低床面積 [人数×3.3平方メートル] が 必要)
住宅専用 地域での 営業	不可	可*

※自治体の条例により異なる

「民泊新法」による3つのメリット

民泊ホストや施設管理者が
自治体にインターネット上から
届出を行うだけで営業が可能

※観光庁が新たに整備する「電子申請システム」でインターネットからの届出が可能になる。

特区民泊にはある「2泊3日以上」
といった最低宿泊日数制限なし

現行法では不可能な住居専用地域でも
合法的に民泊の営業が可能

きる。

さらにフロントの設置も必要がないため、参入障壁はかなり低くなった。

寺社にとってこの新法の施行により、民泊を導入しやすくなったといえる。なぜなら、集会や修行などのために使われる施設が整っている寺社ならば、その本来持っている設備をそのまま生かせるからだ。

ただ、周辺住民への配慮などから、自治体が独自の条例で上限を180日より少なくしたり、住宅地での営業を認めないといった内容で

制定することも認められる。そのため「日数制限によりビジネスとしての参画は難しいのではないか」という意見もあるが、その制限は寺社にとっ

てはそれほど障壁ではない。もともと法事や行事などがあるため365日フル稼働の宿泊受け入れ体制は難しい。そうした行事がない期間だけを民泊にすればいいとも考えられる。

具体的な運用方法も想定しやすすい。例えば住職が複数のお寺を兼務されていれば、住職が不在になる場合でも、お寺を民泊として宿泊客を受け入れることもできるのではない

だろうか。また法事の場合、参列者が遠方から来られるときは、わざわざ旅館やホテルなどを紹介しなくても、そのままお寺に宿泊してもらうこともできる。

つまり、民泊の導入によって寺社と社会とのコミュニケーションがより広く、より濃密になる。こういった活動を通して寺社をより身近に感じてもらったり、寺社の在り方についてもより広く、深く関心を持っていただけではないだろうか。

民泊をサポートするサービス「テラハク」

従来の旅館業法などによる民泊に比べ、さまざまな点で寺社による民泊開設の障壁は低くなっている。こうした時流にも乗って、現在、お寺による民泊をサポートし、お寺と宿泊客をマッチングするサービス「テラハク」の準備が進んでいる。

「新法で民泊を受け入れる用意ができて、全国の宿泊客への告知は難しい…」とためらうお寺にとっては、最適なサービスとなるに違いない。今後、編集部では「テラハク」に注目し、特集を組んで紹介する予定だ。



「お寺に泊まろう!テラハク」
2018年6月宿泊サービス開始予定。
現在、テラハクに参加を希望する寺院の
事前登録を公式サイトにて受付中。
<http://terahaku.jp/>



(上・中) 鮮やかな色彩が創建当時そのままに残る本堂。逆さになっている左側の天女の絵は、他の天女の壁画を重ねて隠してあったことが近年発見された

(下) 海老の背のように沿った海老虹梁(えびこうりょう)。このカーブが力を分散させ建物の強度を上げていると言われている



浄土宗 無量光山 **阿弥陀寺**

〒640-8303
和歌山県和歌山市鳴神1095
TEL : 073-471-3206



地域の思いが移築を実現させ、村の誇りに

徳川秀忠の霊廟を移築した本堂

創建は不明ながら、最古の記録によれば1645(正保元)年に最初の本堂が完成したとされる阿弥陀寺。現在和歌山県の指定文化財に指定されている本堂は、明治維新の際に廃寺となつた大智寺から1871(明治4)年に移築されたもので、元は徳川二代將軍の徳川秀忠の霊廟だった建物である。

移築された経緯を「朽ちかけていた本堂を見て、当時の檀家の方々が村の誇りとなる本堂をと日々節約して寄進して下さったと、現在も残る寄進帳に記されており。その方々の子孫にあたる方が今も檀家として寺を守ってくださっています。本堂の美しさや歴史もさることながら、はるか昔から地域に根づき愛された寺だったという事実が寺にとって何よりの宝だと感じています」と話す住職の榎本明洋さん。保存の対策がなかなか施せないことを懸念されていた。

本堂の外部は風雨にさらされ色褪せているが、一歩中へ足を踏み入れると、その美しさに息をのむ。「移築の頃の檀信徒さんの思いを伝え、若い人でも気軽に足を運んでもらえる、親しみやすい寺でありたいと思っています」と榎本さんはこの本堂への思いを語る。

石燈籠（時雨燈籠）

芸能の神の元で、全国から集う芸人を見守ってきた国指定重要文化財



(上)2022年にご鎮座1200年を迎える関蟬丸神社の「石燈籠(時雨燈籠)」

(右)六角形の火袋。口の片方は四角、その反対側は丸くなっている

(左)「時雨燈籠」と呼ばれている理由は社伝でも定かではないが、火袋の外側に入っている縦線が由来ではないかという説もある



関蟬丸神社 下社

〒520-0054
滋賀県大津市逢坂1-15-6
TEL:077-524-2753(滋賀県神社庁)



逢坂の関の守護神として崇敬された関蟬丸神社。平安中期、後撰和歌集の歌人であり琵琶の名手であった蟬丸を祀ったことから、歌舞音曲の神として芸能に関係する人々から厚い信仰を得るようになった。

3年前から地元市民らが中心となつて開催されている関蟬丸芸能祭は能や狂言のほか、漫才や落語、京都島原の太夫による艶やかなお練りなどで大いに賑わう。「時雨燈籠」と呼ばれる石燈籠は、鎌倉時代の作風を色濃く残すと共に、「蟬丸型」と呼ばれる独特な造形を持つことから、1961(昭和36)年に国の重要文化財に指定された。宮司の橋本匡弘さんによれば「蠟燭を収める火袋という部分が六角形であることが珍しく、さらに口の部分が片方は四角、もう片方は丸い形状になっています」とのこと。保存にあたっては劣化を防ぐため決して触れず、ブローアーなどで汚れを落とすそうだ。

橋本宮司は「関蟬丸芸能祭をきっかけに関蟬丸神社と時雨燈籠の歴史の価値を理解していただき、傷みが出ている本殿などを修復していきたい。そして再び「芸能の神様」として多くの方に親しんでいただける神社になることができれば」と願っている。



風まかせ 17

野田博明



瀬をはやみ岩にせかるる滝川の われても末にあはむとぞおもふ

「崇徳院」という上方落語がある。人間国宝の故・桂米朝が得意とした大ネタである。床屋で鏡を割った熊さんが、末に買ったとぞ思う」と御製を本歌取りして、月末には弁償すると大爆笑の落ちを誘うものである。しかし、実際の崇徳院のご生涯は腹を抱えて笑うどころかその真逆であった。

社殿が建つ。鼓岡神社である。850年前、この地には国府の壮大な建物が幾宇も連なっていた。ほんの数年前の調査であるが、石段をおりて100メートルほど歩いた所に国府庁の中核施設の遺構が発掘された。まさに蔓の波が鼓岡の目と鼻の先に見えたことになる。それは軟禁された上皇が日々国府を見下ろすというより、官憲の目により常に監視されていたというのが適切である。保元の乱から配流に至る崇徳上皇の顛末や幽閉生活の様子はほぼ同時代を生きた語り手による「保元物語」に詳しいが、江戸中期の怪奇物語、「雨月物語」の「白峯」には現世に

深い怨みを留めた院のあさましいまでの魂が描かれ、史実とは別の意味で身の毛もよだつ迫真性をもつ。

一心に写経した大乘経を後白河上皇に突き返された崇徳院の憤怒は一方ならず、「日本国の大魔縁となり、皇を民となし民を皇となさん」と有名な呪文を舌を喰いちぎり血書し、志度の海に投げ込んだ。その後、皇家に対する怨恨は募り、都への還幸もかなわず9年におよんだ流刑の生活の幕を閉じた。その死因は病死とも暗殺とも伝えられ、鼓岡近くに殺害されたことを標す柳田の碑が残る。その墓標のような石柱は線路脇の小さ

な田んぼの隅にぼつんと取り残されている。院のご遺骸は夏の盛りとて、都からの埋葬の許可を待つ間、冷たい湧水の満ちる弥蘇場の池に浸し保存された。そして、ようやく宣旨が届き5キロメートルほど北に離れた白峰山で荼毘に付されることになった。

伝説の讃留霊王が瀬戸内の怪魚に葬られた軍兵をこの聖水で蘇生させたとの話を残す弥蘇場にとどまる間、夜ごと付近の霊木に神光が輝く怪異現象が起こった。人々はその閃光が崇徳院の憤怒の意思であると怖れた。それを伝え聞いた朝廷は詔を発し、この地に御霊を鎮める社を造営した。現在の白峰宮である。創建の縁起となった神光で漆黒の闇が昼間のように明るくなったことから、別名を「明

の宮」と云う。白峰山へ葬送の途上、山麓の高屋神社の石の上に殯柩を奉置したところ一天にわかにかき曇り雷鳴とともに激しい風雨が襲った。天候の回復を待ち柩を持ち上げるとその六角形の石に帝の血がこぼれていた。それから当社はおどろおどろしくも、血の宮」と呼ばれるようになった。そんな伝承が残るほどに崇徳院の怨念は口さがない庶民の口の端にのぼり、いつの間にか自然界に起こる不可解な現象までが院の祟りに関連づけられていったのだと思う。

一方、都においても後白河上皇の妃や美福門院、氏長者の地位を奪還した藤原忠通やその愛息など、崇徳院に敵対した人物やその縁者の死がつつぎ後白河院自身も病に伏せた。さらに延暦寺僧兵の強訴や都の大火、

皇室、摂関家、源平を巻き込んだ保元の乱を引き起こし敗残の身となる院は讃岐へ配流され、鼓岡（坂出市府中町）という小高い丘に建つ木の丸御殿に軟禁される。現在、その跡地に讃岐国造の始祖・讃留霊王の古墳にもたれるようにして小さな

月物語」の「白峯」には現世に

標のような石柱は線路脇の小さ

明

延暦寺僧兵の強訴や都の大火、



彗星の出現など人心を不安に陥れる禍事が多発する。朝廷はこうした災いが院の祟りであると畏怖し、それまでの讃岐院を崇徳院と改め追号した。

皇を民の地位に貶めると皇統断絶を呪詛した崇徳院の凄烈な怨念は、わが国の三大怨霊の筆頭として魔界を統べる巨魁となった。爾後、歴代皇室はその祟りを恐れ、事あるごとに御霊の鎮撫に意を尽くしていく。白峰山中腹に築かれた御陵の隣地にある四国霊場札所の白峯寺境内に鼓岡から木の丸殿を移築し、崇徳院の御廟・頓証寺殿を造営したのもそのひとつである。讃岐の金刀比羅宮も元々の祭神は大物主命であったが、崇徳院の没後、早々に御霊を合祀した。そして、後白河上皇につづく二条、六条、高倉、安徳の

歴代天皇が27年という短い間に次々と崩御する。しかもそのなかで最も長命であった二条天皇ですら23歳の夭逝とその戦慄すべき事実は、時の後鳥羽天皇を恐慌状態に陥らせ、金刀比羅宮へ即座の勅使派遣となったのである。また、藤の花を殊のほか愛された崇徳院が通った藤寺という一堂が京都東山にあった。寵愛をうけた阿波内侍がご遺影を境内の観音堂に祀り菩提を弔ったとされる。その御堂に法師が籠った際、院の姿が現れ出たとの奇妙な話が伝わるや後白河院は恐れをなし、その地に新たな寺を建立し崇徳院を祀ったという。それが安井金刀比羅宮の起りだと由緒は語る。そのすぐ近くの祇園・甲部歌舞練場に隣接して小さな御廟がある。阿波内侍が院のご遺髪を請

い受け、崇徳天皇御廟を建てたものである。内侍の可憐な心根が伝わる話である。ところが保元物語には乱の後に崇徳院が阿波内侍の館に逃げ込もうとするも門は閉ざされ音もせず、やむを得ずほかの女官のもとへ向かったとの話が描かれている。そんなつれない女の裏話を知ってか知らずか、現代の安井金毘羅宮は悪縁を切り良縁を結ぶ霊験あらたかな神社として若い女性に大人気で股賑を極めているのだから、本当に女は怖い生き物だと純真な男どもは首をすくめるしかない。

また同じ京都では、1868（明治元）年に明治天皇が白峰（明治元）年に明治天皇が白峰御陵から崇徳院の御霊を還幸し、上京区飛鳥井の地に白峯神宮を建立した。700年の時を隔てての帰京であった。この神社は崇徳院のほか淳仁天皇をご祭神としているが、蹴鞠の家元である飛鳥井家の旧地とあって現代ではサッカーなど球技の神様として参拝する若者たちで賑わっている。

そんな崇徳院であるが、上皇時代に勅撰和歌集・詞花和歌集を編纂させるなど第一級の文化人でもあった。冒頭の「瀬をはやみ」は小倉百人一首の77番目の歌として知られている。編者である藤原定家はそのひとつ前、76番に法性寺入道前白太政大臣の歌を配している。この入道こそ保元の乱で後白河天皇側についていた、時の関白・藤原忠通である。その句は崇徳院がまだ天皇在位のころ催した内裏歌合せで海上遠望という兼題で詠まれたものである。和田の原こぎ出でてみれば久堅の雲居に

- 1 坂出市の鼓岡に建つ鼓岡神社
- 2 崇徳天皇と書かれた扁額の架かる白峰宮
- 3 白峰山麓に鎮座する高家神社（別号 血の宮）
- 4 後小松天皇のご宸筆の扁額のかかる頓証寺殿勅額門
- 5 金刀比羅宮・社殿
- 6 阿波内侍と崇徳院所縁の京都の安井金毘羅宮
- 7 祇園の甲部歌舞練場の裏にある崇徳天皇御廟
- 8 崇徳院と淳仁天皇を祀る京都の白峯神宮

野田博明（のだ・ひろあき）

昭和26年生まれ。東大卒。日本興業銀行広報部長などを経て、現在、一般社団法人全日本社寺観光連盟理事。平成27年文化庁・官公庁共催の「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」、平成29年文化庁の「文化財の多言語解説等による国際発信力強化の方策に関する有識者会議」の委員。



伊勢神宮内宮 宇治橋前にて

キーワードは“インスタ映え” フォトジェニックランキングで寺社が上位に

その年に話題になった言葉に贈られる「2017 ユーキャン新語・流行語大賞」で、“インスタ映え”が年間大賞に選出された。写真を加工して投稿するSNS“インスタグラム”は、若い女性を中心に2017（平成29）年にはユーザー数が2000万人にまで拡大。“インスタ映え”は時代を象徴する言葉と言えるだろう。

寺社がフォトジェニックな観光スポットに

近年はインスタグラムのフォトジェニック（写真映えるの意）をきっかけに、旅行先を決定する人が増えているとも言われている。世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」は、昨秋、口コミ投稿に対して写真投稿の割合が多かった日本の観光スポット1位～10位をピックアップし「夏のフォトジェニック観光スポット」と題して日本人、外国人それぞれのランキングを発表した。

それぞれトップ10入りした観光スポットが異なり、外国人目線での日本の魅力を再確認できたほか、日本人ランキングでは1位の「弥彦神社」（新潟県）をはじめ2位「瑞龍寺」（富山県）、3位「成田山新勝寺」（千葉県）、5位「明治神宮」（東京都）と寺社が上位に、外国人ランキングでも「南禅寺」（京都府）、「豪徳寺」（東京都）と2つの寺が10位内にランクインしていることに注目したい。日本国内の数ある観光スポットの中で、寺社がフォトジェニックな観光スポットとして計6カ所も選出されたのだ。



1位の弥彦神社。弥彦山を背景にした社殿の荘厳な姿に魅了されたという声も

インスタグラムを有効活用して集客力を高める

そうした中、清水寺（京都府）ではすでに2014（平成26）年から公式のインスタグラムをスタートし、出会いと発見をテーマに清水寺の“今”を紹介するため、四季折々の美しい風景、僧侶たちの修行風景などをアップ。清水寺の魅力をさまざまな角度から捉えた写真は世界中のインスタグラマーから絶賛され、今ではフォロワー数16万人を超える人気アカウントになっている。

歴史ある寺社でもインターネットやSNSを通じてさまざまな情報を発信している近年、寺社の“中の人”だからこそ知っているインスタ映えするフォトジェニックなスポットや新たな魅力、非日常の世界を発信してみたいかがだろうか。

ランキングデータ：トリップアドバイザー発表 旅行者が写真を投稿せずにはられない「夏のフォトジェニック観光スポット」

日本人旅行者

- 1位 弥彦神社（新潟県弥彦村）
- 2位 瑞龍寺（富山県高岡市）
- 3位 成田山 新勝寺（千葉県成田市）
- 4位 青函連絡船 メモリアルシップ 八甲田丸（青森県青森市）
- 5位 明治神宮（東京都渋谷区）
- 6位 ニッカウキスキー余市蒸溜所（北海道余市町）
- 7位 グラバー園（長崎県長崎市）
- 8位 出島（長崎県長崎市）
- 9位 端島〔軍艦島〕（長崎県長崎市）
- 10位 皇居東御苑〔旧江戸城本丸跡〕（東京都千代田区）

外国人旅行者

- 1位 洞爺湖（北海道）
- 2位 オアシス21（愛知県名古屋市）
- 3位 新横浜ラーメン博物館（神奈川県横浜市）
- 4位 谷中（東京都台東区）
- 5位 おきなわワールド 文化王国・玉泉洞（沖縄県南城市）
- 6位 知床五湖（北海道斜里町）
- 7位 南禅寺（京都府京都市）
- 8位 豪徳寺（東京都世田谷区）
- 9位 ニッカウキスキー余市蒸溜所（北海道余市町）
- 10位 ファーム富田（北海道中富良野町）

TripAdvisor Gallery <http://tg.tripadvisor.jp>

寺社のみなさまのご要望にお応えして
広報活動をお手伝いします

プレスリリース(広報用資料)を受け付けしています!

- 特別拝観や催し事(イベント含む)の開催
- 一般の方々に告知したい取り組み
- 他の寺社に告知したい取り組み
- 組織・人事の異動
- 新しい試み・事業
- 宿坊情報の掲載

など、貴寺社の情報を当協会までお送りください。

情報誌・ウェブ版「寺社Now」、
宿坊ポータルサイト「和空」、SNS、
関連ウェブメディアに記事を無償で掲載いたします!

なお、諸事情で掲載ができない場合もございます。あらかじめご了承ください。



http://wa-qoo.com



http://jisya-now.com/

ウェブ10万PV※
Facebook5万いいね!※
雑誌発行部数
3万部で発信!

※グループ合計

プレスリリースの資料や写真を下記までお送りください

※当協会から確認のご連絡をする場合がございますので、ご担当者のお名前、電話番号などの連絡先を必ずご明記願います。



郵便・宅配便で送付

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 9F TEL:06-6360-9838



e-mail で送信

info@jisya-kk.jp
※件名にプレスリリースとご明記ください

バックナンバーのご案内

寺社の「いま」を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。



vol.13

- ◆巻頭特集
MICE 誘致拡大に向けた社寺の取り組み
- ◆インタビュー
河内國一之宮 枚岡神社 宮司 中東弘



vol.14

- ◆特別対談企画
公益財団法人徳川記念財団理事 徳川家広
和宗総本山四天王寺執事 山岡武明
和宗総本山四天王寺 総務部参詣 課信徒係主任 瀧藤康教
- ◆編集企画
高齢化社会に向けた社寺のバリアフリーの取り組み



vol.15

- ◆巻頭特集
真言宗御室派 大本山大聖院 吉田正裕座主
- ◆クローズアップ
真宗大谷派 難波別院(南御堂) 宮浦一郎輪番



vol.16

- ◆巻頭インタビュー
神道青年全国協議会 会長 富岡八幡宮 禰宜 佐野巖
- ◆クローズアップ
全国商工会連合会 専務理事 乾敏一

次号は
3月発行の
予定です。

監修

一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人

一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力

株式会社 関西ぼど

発行所

一般社団法人 全国寺社観光協会
(事務局)
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号
AXIS 南森ビル9F
Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

寺社 Now

第17号 平成30年1月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。
本誌の許諾なしに複製(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。

jisya-now.com または

寺社NOW

検索

本誌の記事に関するお問合せは
右記にお寄せください。

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満 1-11-13 9F
TEL : 06-6360-9838 FAX : 06-6360-9848 e-mail : info@jisya-kk.jp

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、()内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスにてお送り願います。

Q1. 所属

寺院 神社

Q2. 今号で面白かった記事はどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

- ① 巻頭インタビュー:救済が求められる今 若い力で時代の要請に応える 全日本仏教青年会第21代理事長 倉島 隆行
 ② 特集 寺社を未来につなぐ最先端テクノロジーの活用:東京藝術大学の「クローン文化財」/地域と寺社のプロモーションに役立つ画期的なWeb地図サービス「Stroly」/読経LIVE「キネマ法要」の舞台裏 ③ クローズアップ:世界の仏教文化振興に貢献する仏教伝道協会 仏教伝道協会会長 木村 清孝 ④ From the Past to the Future:真言宗 南都十輪院「みんなのお寺 仏教相談センター」/株式会社 山本合金製作所 鏡師 山本 晃久 ⑤ 2018年注目ニュース「民泊新法施行」:いよいよ6月に施行される「民泊新法」が寺社の新たな未来を切り開く理由とは? ⑥ うちのお宝:阿弥陀寺 徳川秀忠の霊廟を移築した本堂/関蟬丸神社 石燈籠(時雨燈籠) ⑦ 野田博明 風まかせ17:瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末にあはむとぞおもふ ⑧ トレンドNow:キーワードは“インスタ映え” フォトジェニックランキングで寺社が上位に

Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

観光 外国人対応 宿坊新規開設・運営 寺社イベント 広報 地域振興 結婚式 後継者育成 土地活用
その他 (ご記入ください)

Q4. 今号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名:

Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

- ① ホームページ ② SNS運用代行 ③ アプリ開発 ④ 告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)
 ⑤ フリーWiFi ⑥ 自販機設置 ⑦ 喫煙所設置 ⑧ 清掃 ⑨ 老朽化・耐震対策 ⑩ 警備 ⑪ 保険 ⑫ 介護施設
 ⑬ 託児所 ⑭ 土地活用 ⑮ 資産運用 ⑯ 税金対策
 ⑰ その他 (ご記入ください)

Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

(ご記入ください)

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの継続購読をご希望の場合は、下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

<input type="checkbox"/> バックナンバー希望	ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可	<input type="checkbox"/> 継続購読希望
(Vol. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16)		

寺社名		氏名	
ご住所	〒		
お電話番号			

< FAX > 06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】
ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。



感動のそばに、いつも。



人をつなぐ、笑顔をつなぐ。

JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動



JOCゴールドパートナー(損害保険)